

当科では実臨床の経験を、症例報告として発表することをスタッフに推奨しております。症例の学会発表だけでなく、論文報告を行うことで、つまり査読に耐えうるような日々の臨床を行うことで、日常臨床のレベルもさらに向上させたいと考えております。内科臨床においては、鑑別診断をはじめ治療の選択一つにしても、その合理性、妥当性が査読者に問われ議論になります。ただ、漫然と病状が改善したというだけで、診断、治療のプロセスの考察がうまくできないものは、論文報告として受理されにくい状況にあります。日々の症例に対して何時でも症例報告論文に耐えうるだけの丁寧な鑑別、適切な治療を心掛けていきたいと考えております。このように、一例一例をしっかりと考えることができるようになれば、リサーチクエスチョンを各自持つことができるようになり、またそのクエスチョンをどのようにして解決していくかを考えることで、臨床研究への道が開けてくると考えております。

ネフローゼ症候群の診療においては、病巣感染を根治することで免疫抑制剤なしに微小変化型ネフローゼ症候群を寛解導入に導いた症例を我々は経験し、報告しております。これは腎臓からの蛋白尿漏出の機序に、感染が重要であることを示唆する知見であり、今後ネフローゼ症候群という枠組みにとらわれることなく、腎疾患一般において病巣感染の意義を検討していきたいと考えております。IgA腎症についても、過去に血尿、糖鎖、病巣感染などの観点より検討をおこなって参りましたが、今後もさらなる病態の解明に取り組んでいきたいと考えております。糖尿病性腎症も、末期腎不全の原疾患として非常に重要であります。まだまだ現在の治療法では、不十分であると考えております。食事療法を基礎とし、種々のツールを用いて積極的に取り組み、予後の改善につなげていきたいと考えております。急性腎障害における急性血液浄化に関しても自験例を対象に、積極的に治療法の考察を行い、新規の治療法を提唱しております。

【2015年度 研究発表業績】

A-0

Sakaguchi Y, Iwatani H, Hamano T, Tomida K, Kawabata H, Kusunoki Y, Shimomura A, Matsui I, Hayashi T, Tsubakihara Y, Isaka Y, Rakugi H : Magnesium modifies the association between serum phosphate and the risk of progression to end-stage kidney disease in patients with non-diabetic chronic kidney disease. *Kidney Int.* 2015 Oct;88(4):833-842、2015年10月19日

Iwatani H, Kawabata H, Sakaguchi Y, Yamamoto R, Hamano T, Rakugi H, Isaka Y : Urine osmolality predicts the body weight-reduction response to tolvaptan in chronic kidney disease patients: A retrospective, observational study, *Nephron*, 2015;130(1):8-12、2015年4月30日

Iwatani H, Mori D, Yamamoto S, Nakano C, Yamamoto R, Masumura C, Shikina T, Imai T, Inohara H, Rakugi H, Isaka Y : Minimal Change Nephrotic Syndrome Which Was Most Likely Caused by Chronic Sinusitis. *Intern Med.* 2015;54(18):2373-2375、2015年9月15日

Iwatani H, Nagasawa Y, Yamamoto R, Iio K, Mizui M, Horii A, Kitahara T, Inohara H, Kumanogoh A, Imai E, Rakugi H, Isaka Y : CD16⁺CD56⁺ cells are a potential culprit for hematuria in IgA nephropathy, Clin Exp Nephrol. 2015 Apr;19(2):216-224、2015年4月20日

Yamato M, Takaori K, Tomiyama Y, Fujimura R, Yokobatake C, Wada A, Ito T : Abnormal Diurnal Patterns of Parathyroid Hormone are Associated with Sustained Mild Hypercalcemia in Non-Dialyzed Chronic Kidney Disease. Clin Lab. 2016; 62(1-2):81-88、2016年3月16日

Minematsu Y, Yamato M, Ikemiya Y, Ito T : The Superiority of AN69ST Membrane in the Adsorption of Fibroblast Growth Factor-23. Clin Lab. 2016; 62(1-2):219-225、2016年3月16日

A-3

福田泰也、太宮英泰、藤村龍太、倭成史、児玉良典、高見康二 : 術後急性増悪した間質性肺炎に集学的治療が奏功した CPFE 合併肺癌の1例、日臨外会誌 76 (10), 2404-2411、2015年10月25日

A-4

倭成史、峰松佑輔、藤井順也、柴田純一、池宮裕太、湊拓巳、宮川幸恵、高折佳央梨、富山陽子、藤村龍太、横島知沙子、和田晃、伊藤孝仁 : HMGB1 制御としての Polymyxin-B direct hemoperfusion (PMX-DHP) とリコンビナントトロンボモジュリン(rTM)、日本急性血液浄化学会雑誌 6(2):107-114、2015年12月1日

B-2

Kajitani K, Ito T, Takaori K, Tomiyama Y, Nagayama I, Yamato M, Wada A, Iwatani H : Congenital pituitary stalk interruption syndrome (PSIS) newly diagnosed in case se of hyponatremia in the elderly. ASN kidney Meeting, San Diego, USA、2015年11月6日

Miyagawa S, Minematsu Y, Minato T, Fujii J, Ikemiya Y, Shibata J, Yamato M, Sakaki M : Dynamic Changes in HMGB1 Levels During Cardiopulmonary Bypass in Dialysis Patients. 2nd Meeting of the Federation of Asian Perfusion Societies, Hyogo, Japan、2015年10月17日

B-3

岩谷博次 : 慢性腎臓病 (CKD) と高血圧～卵と鶏の関係～、第24回日本腎泌尿器疾患予防医学研究会シンポジウム、大阪、2015年7月10日

峰松佑輔、倭成史、宮川幸恵、湊拓巳、藤井順也、池宮裕太、柴田純一、伊藤孝仁、岡田俊樹 : HMGB1 制御に向けた血液浄化療法と rTM 製剤の併用療法、第42回日本血液浄化技術学会、ワークショップ、東京、2015年4月25日

倭成史、峰松佑輔、伊藤孝仁 : 急性血液浄化における paradigm shift、第26回日本急性血液浄化学会学術集会、パネルディスカッション2、東京、2015年10月9日

倭成史 : HMGB1 制御としての Polymyxin-B direct hemoperfusion (PMX-DHP) とリコンビナ

トロンボモジュリン(rTM)、第26回日本急性血液浄化学会学術集会、わかりやすいセミナー11、東京、2015年10月10日

倭 成史、峰松佑輔：DICを併発した敗血症性ショックに対するHMGB1制御を目的とした治療戦略、平成27年度日本アフェレシス学会井上学術奨励賞受賞記念講演、第36回日本アフェレシス学会、埼玉、2015年10月31日

倭 成史：sepXiris®を用いた新たな血液浄化療法の可能性～急性と慢性の接点を探る～、第32回日本医工学治療学会学術大会、ランチョンセミナー4、山梨、2016年3月20日

村上弘大、宮本敦史、倭 成史、前田 栄、植村 守、山本和義、三宅正和、濱 直樹、西川和宏、大宮英泰、平尾素宏、池田正孝、高見康二、中森正二、関本貢嗣：当院における急性汎発性腹膜炎症例での術後血液浄化療法の検討、第28回日本外科感染症学会総会学術集会、シンポジウム7、名古屋、2016年12月3日

B-4

酒井佳奈紀、井口直也、岩谷博次、内山昭則、藤野裕士：肝移植術後の高カルシウム血症についての検討、第43回日本集中治療医学会学術集会、神戸、2016年2月13日

岩谷博次、高折佳央梨、富山陽子、長山郁恵、倭 成史、和田 晃、楽木宏実、猪阪善隆：腎機能低下患者において尿浸透圧はトルバプタンの体重減少効果を予測する（ベストポスター賞受賞）第69回国立病院総合医学会、札幌、2015年10月3日

高折佳央梨、富山陽子、藤村龍太、横島知沙子、倭 成史、和田 晃、伊藤孝仁：腎動脈石灰化の臨床的意義に関する検討、名古屋、第58回日本腎臓学会学術総会、2015年6月6日

岩谷博次、坂口悠介、川端裕彰、山本陵平、楽木宏実、猪阪善隆：尿浸透圧は腎機能低下患者において、トルバプタンの体重減少効果を予測する、第112回日本内科学会総会・講演会、京都、2015年4月10日

倭 成史、高折佳央梨、島 陽子、藤村龍太、中野知沙子、和田 晃、伊藤孝仁、田中稔恵、岡垣篤彦、巽 啓司：妊娠母体血中Ca値に対して母体FGF23が与える影響の考察、第112回日本内科学会総会・講演会、京都、2015年4月11日

池宮裕太、峰松佑輔、宮川幸恵、湊 拓己、藤井順也、柴田純一、倭 成史、和田 晃、伊藤孝仁、岡田俊樹：横紋筋融解を伴う敗血症性DICに対するrTM+PMX-DHPPMMA-HDF併用療法が有効であった一例、第25回日本臨床工学会、福岡、2015年5月24日

倭 成史、高折佳央梨、島 陽子、藤村龍太、中野知沙子、和田晃、伊藤孝仁、田中稔恵、岡垣篤彦、巽 啓司：妊娠母体Ca代謝に対して母体FGF-23が与える影響の考察、第58回日本腎臓学会学術総会、名古屋、2015年6月7日

峰松佑輔、倭 成史、池宮裕太、伊藤孝仁：AN69ST膜におけるFGF-23の吸着の優位性、第

26回日本急性血液浄化学会学術集会 (Best Presentation Award)、東京、2015年10月9日

池宮裕太、峰松佑輔、倭成史、伊藤孝仁：PMMA膜におけるミオグロビン吸着挙動の基礎的検討、第26回日本急性血液浄化学会学術集会 (Best Presentation Award)、東京、2015年10月9日

峰松佑輔、倭成史、池宮裕太：AN69ST膜によるFGF-23吸着の優位性、第43回日本集中治療医学会学術集会、神戸、2016年2月13日

B-5

倭成史：急性血液浄化における paradigm shift～急性と慢性の接点を探る～、第22回近畿臨床工学会 KACET2015、教育講演1、大阪、2015年11月7日

倭成史：AN69ST膜を用いた新たなる血液浄化療法の可能性～急性と慢性の接点を探る～、第33回日本集中治療医学会中国四国地方会、L3 ランチョンセミナー、広島、2016年2月20日

梶谷憲司、倭成史：感染を契機に低ナトリウム血症を発症した1例、日本内科学会専門医部会教育セミナー「低ナトリウム血症をきわめる」第一部症例検討、第209回日本内科学会近畿地方会、大阪、平成27年9月12日

B-6

大河内謙太郎、福田貴史、岩谷博次、石田健一郎、家城洋平、岩佐信孝、梶野健太郎、佐尾山裕生、曾我部拓、下野圭一郎、高端恭輔、若井聡智、上尾光弘、木下順弘、定光大海：アセチルサリチル酸の大量摂取後、尿アルカリ化により血液透析を回避できた一例、第36回日本中毒学会西日本地方会、大阪、2016年2月6日

岩谷博次、酒井佳奈紀、上野豪久、内山昭則、藤野裕士、奥山宏臣、楽木宏実、猪阪善隆：イオン化 Ca(iCa)とアルブミン補正 Ca(cCa)が血液透析 (HD) 施行中に逆説的反応を呈した肝移植後肝不全での高Ca血症、第45回日本腎臓学会西部学術大会、金沢、2015年10月24日

高折佳央梨、倭成史、峰松佑輔、富山陽子、長山郁恵、和田晃、伊藤孝仁、岩谷博次：Mendelson症候群によるARDSに対して、AN69ST-CHDFが有効であった一例、第45回日本腎臓学会西部学術大会、金沢、2015年10月24日

朝比奈悠太、長山郁恵、高折佳央梨、富山陽子、倭成史、伊藤孝仁、和田晃、岩谷博次：下剤の長期大量内服による慢性低K血症及び尿細管障害を呈した1例、第45回日本腎臓学会西部学術大会、金沢、2015年10月24日

小泉信太郎、倭成史、高折佳央梨、富山陽子、長山郁恵、伊藤孝仁、和田晃、岩谷博次：ステロイドパルス療法直後に完全寛解に至った微小変化型ネフローゼ症候群の一例、第45回日本腎臓学会西部学術大会、金沢、2015年10月23日

小川拓也、倭成史、高折佳央梨、富山陽子、長山郁恵、伊藤孝仁、和田晃、岩谷博次：副鼻腔炎の関与が疑われたネフローゼ症候群の症例、第45回日本腎臓学会西部学術大会、金沢、2015年10月23日

高折佳央梨、倭成史、峰松佑輔、富山陽子、長山郁恵、萩原清貴、西川和宏、和田晃、伊藤孝仁、岩谷博次：ARDSに対してAN69ST-CHDFを施行した二例、第26回日本急性血液浄化学会学術集会、東京、2015年10月10日

藤森なぎさ、多田雄真、柴田純一、池宮裕太、藤井順也、湊拓巳、峰松佑輔、宮川幸恵、池田弘和、井上信正、石村圭位、小笠原充幸、和田晃、藤村龍太、高折佳央梨、富山陽子、長山郁恵、倭成史、伊藤孝仁、岩谷博次：血漿交換療法、トロンボモジュリン製剤(rTM)、ステロイドによる集学的治療が奏功した血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)の一例、第82回OCKD、大阪、2015年6月12日

B-8

岩谷博次：腎臓生理学よりみた利尿薬について、心不全 Conference～水利尿薬の位置づけを考える～、大阪、2016年3月10日

朝比奈悠太、長山郁恵、高折佳央梨、富山陽子、倭成史、和田晃、岩谷博次：下剤乱用による慢性低K血症と尿細管障害について、第3回SALT CLUB、大阪、2016年2月20日

岩谷博次：血尿を腎臓内科医はどのように診るか、第37回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2016年2月20日

岩谷博次：CKD診療～IgA腎症から糖尿病性腎症まで～、大阪市中央区南医師会学術講演会、大阪、2016年1月23日

岩谷博次：腎臓病治療における栄養の意義、第363回CNC、大阪、2016年1月18日

岩谷博次：腎臓と食塩の密接な関係、第12回中央区開業医病診連携の会、大阪、2016年1月14日

岩谷博次：患者紹介のコツ、Tolvaptan conference、パネルディスカッション、大阪、2015年10月21日

岩谷博次：腎臓生理学よりみた利尿薬～トルバプタンの可能性について～、利尿薬の使い方を再考する in 高島、滋賀、2015年10月15日

岩谷博次：腎臓生理学よりみた利尿薬について、体液管理を考える会、大阪、2015年10月10日

岩谷博次：CKD診療～腎炎から糖尿病性腎症まで～、CKD病診連携セミナー、大阪、2015年10月8日

岩谷博次：HIV と腎臓、大阪医療センター研修会、大阪、2015 年 10 月 7 日

岩谷博次：腎臓内科におけるサムスカの可能性、城南水利尿薬カンファレンス～外科領域～、大阪、2015 年 9 月 2 日

岩谷博次：腎臓生理学よりみた体液管理、法円坂心・腎医療連携 Forum、大阪、2015 年 7 月 16 日

岩谷博次：腎疾患と栄養管理、大阪医療センターNST 研修会～Nutrition week～、大阪、2015 年 6 月 17 日

岩谷博次：北摂 Tolvaptan Conference、腎臓生理から考える体液管理について、高槻、2015 年 5 月 28 日

倭 成史、池宮裕太、峰松佑輔：急性血液浄化の paradigm shift、第 20 回大阪 DIC セミナー、大阪、2015 年 6 月 10 日

倭 成史：低カリウム血症を合併した高血圧の 1 例、法円坂心・腎医療連携 Forum、大阪、2015 年 7 月 16 日

倭 成史、伊藤孝仁、峰松佑輔、池宮裕太、柴田純平、藤井純也、湊 拓己、田岡幸恵、高折佳央梨、富山陽子、長山郁恵、和田 晃、岩谷博次：AN69ST 膜による FGF-23 吸着の優位性、第 6 回腎不全研究会、東京、2015 年 12 月 12 日

倭 成史：炎症性サイトカイン HMGB1 制御を念頭においた治療戦略～肝硬変難治性腹水から敗血症性ショック、DIC、急性腎障害まで～、第 30 回 Digestive Disease Renaissance、大阪、2016 年 1 月 23 日

倭 成史：AN69ST 膜を用いた新たな血液浄化療法の可能性～他デバイスとの使い分けに着目して～、関西 sepXiris 講演会、大阪、2016 年 2 月 6 日

倭 成史：AN69ST 膜を用いた新たな血液浄化療法の可能性、第 1 回東海 sepXiris セミナー、名古屋、2016 年 3 月 26 日